

日立金属株式会社

2016年度第3四半期累計決算説明

2017年1月26日

1-1. 2016年度第3四半期累計 概況

需要 動向

**世界経済は、先進国を中心に緩やかな回復が続いたが、アジアでは経済成長が鈍化
国内は、個人消費では持ち直しの動きがみられるものの、輸出・生産面に鈍さがみられ、不透明な状況が継続**

- **自動車は、国内で軽自動車不振、米国で新車販売に高止まりの兆しがみられたが、中国と欧州の需要が伸長し、全体として前年同期比で増加**
- **産業インフラ関連は、鉄鋼は世界の鉄鋼需要が停滞する等、厳しい環境が継続
米国・国内住宅着工戸数は増加**
- **エレクトロニクス関連は、家電が国内中心に増加するも、携帯端末の伸びが鈍化**

1-2. 2016年度第3四半期累計 業績概要

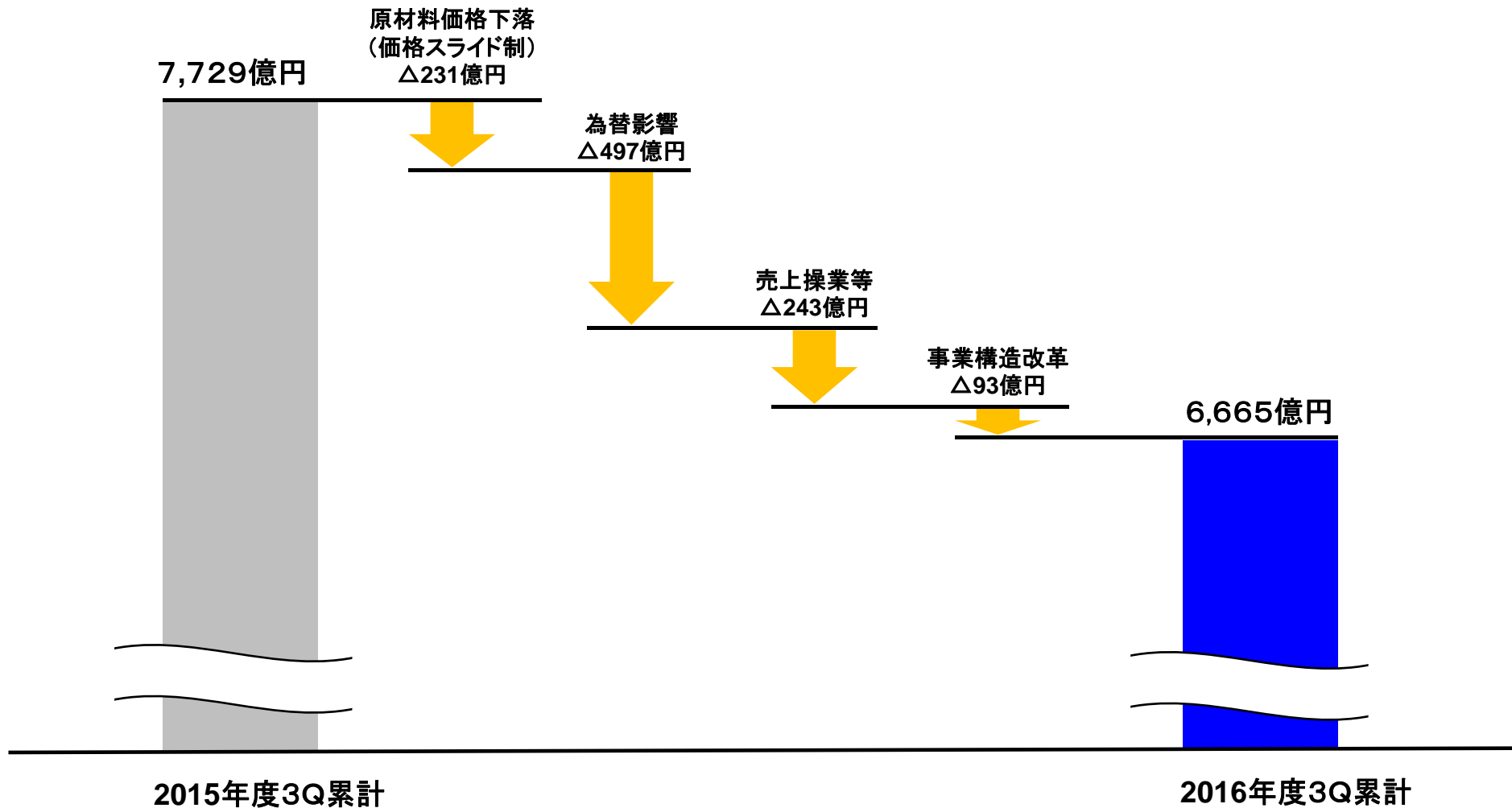
IFRS				
(金額単位:億円) ()は利益率	15年度 3Q累計実績 1\$=121.70円	16年度 3Q累計実績 1\$=106.63円	増減	
売上収益	7,729	6,665	△14%	原材料価格下落(価格スライド制)、為替影響、需要減、事業構造改革により減収
調整後営業利益	(7.0%) 542	(7.1%) 472	△70	原価低減やモノづくり改革の効果はあったが為替影響、需要減、耐熱鋳鋼の新製品対応により減益
その他の収益	338	93	△245	事業再編等利益: 15/3Q累計期間302億円(旧日立ツール他) 16/3Q累計期間 51億円(情報システム事業他)
その他の費用	△88	△69	+19	
IFRS営業利益	(10.2%) 792	(7.4%) 496	△296	
利息・その他の金融収益等	△15	△20	△5	
税引前四半期利益	777	476	△301	
法人所得税費用	△217	△115	+102	
四半期利益	560	361	△199	
親会社株主に帰属する 四半期利益	556	362	△194	
海外売上比率*	56%	55%	△1%	
人 員(人)	29,167	28,290	△877	

* 海外売上地域別構成比

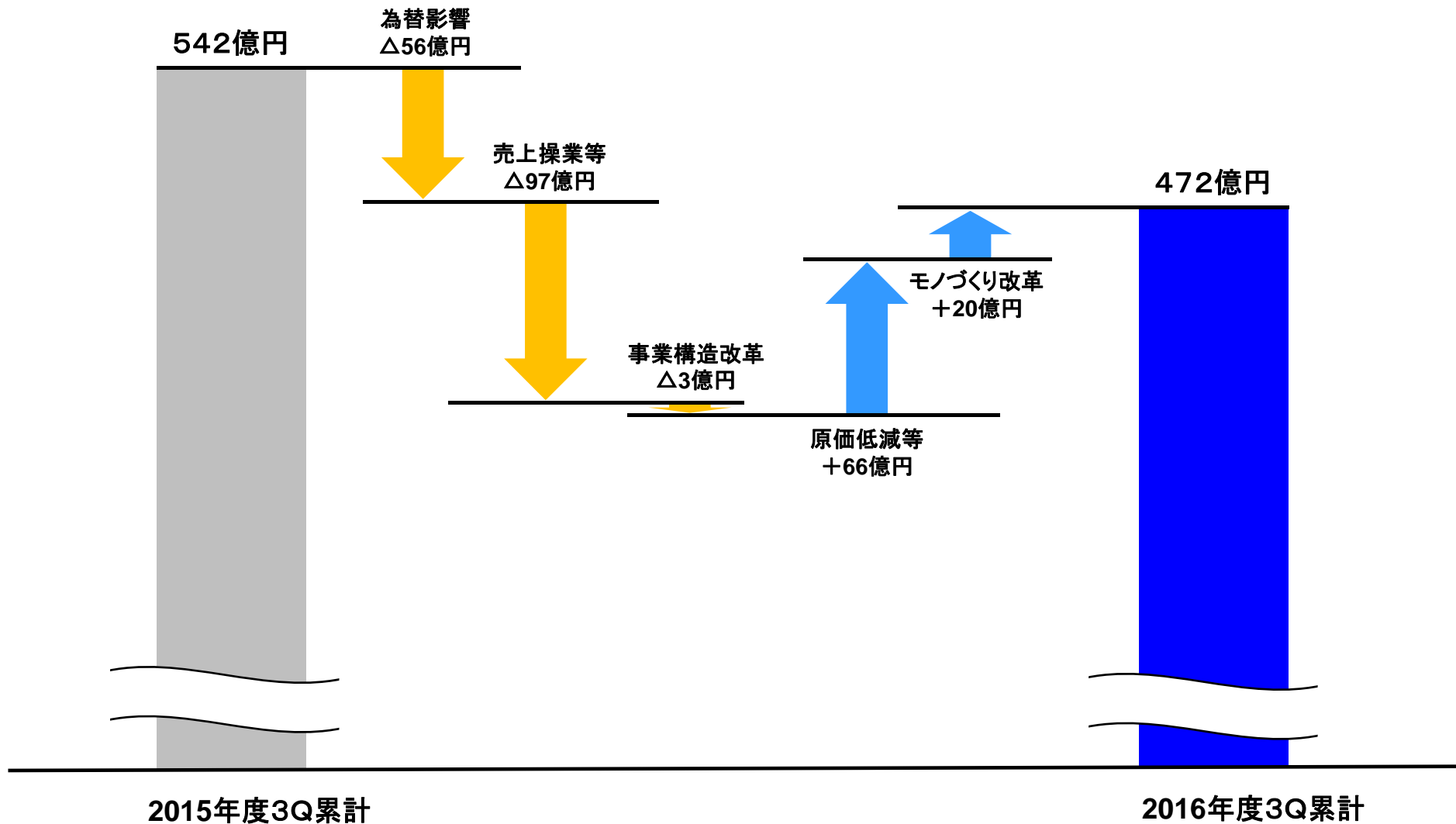
15/3Q累計: 北米31%、中国8%、その他アジア12%、欧州4%、その他1%

16/3Q累計: 北米30%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

1-3. 売上収益の増減要因(前年同期比)



1-4. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比)



1-5. 2016年度第3四半期累計 セグメント別業績

		IFRS			
(金額単位:億円) ()は利益率		15年度 3Q累計実績* 1\$=121.70円	16年度 3Q累計実績 1\$=106.63円	増減	*2016年度に磁性材料セグメントのうち、軟質磁性材料を高級金属製品セグメントに移管。また、本社負担研究開発費をカンパニー負担に変更。2015年度3Q累計実績は上記のセグメント変更後の数値を記載。
高級 金属製品	売上収益	1,942	1,740	△10%	自動車関連の環境親和製品等の需要が増加したが、アジアを中心とする経済減速の影響や軟質磁性材料の中国向け減少により、減収・減益 15/3Q累計期間に旧日立ツール株式売却に伴う事業再編等利益270億円計上
	調整後営業利益	(10.4%) 203	(9.9%) 172	△31	
	セグメント利益	(24.0%) 467	(9.1%) 159	△308	
磁性材料	売上収益	806	736	△9%	下期に入り需要は増加基調に転じたが、原材料価格の下落(価格スライド制)と為替の影響を受け、減収 為替の影響はあったが、好調な需要により、増益
	調整後営業利益	(6.1%) 50	(8.7%) 64	+14	
	セグメント利益	(6.1%) 49	(8.7%) 64	+15	
高級 機能部品	売上収益	2,769	2,421	△13%	北米ピックアップトラック向けは好調を維持したが、農機・建機向けの需要減や為替の影響により、減収 為替影響に加え、耐熱鋳鋼の加工難易度の高い新製品対応等により、減益
	調整後営業利益	(6.6%) 184	(5.1%) 124	△60	
	セグメント利益	(6.1%) 170	(4.9%) 119	△51	
電線材料	売上収益	2,192	1,759	△20%	鉄道向けは伸長したが、構造改革(情報システム)、建設向けの減少に加え、原材料価格の下落(価格スライド制)の影響により、減収 建設向け電線は減少したが、鉄道向けの伸長により、前年同期並み 情報システム事業譲渡に伴う事業再編等利益51億円計上
	調整後営業利益	(4.7%) 102	(5.7%) 100	△2	
	セグメント利益	(5.1%) 113	(8.3%) 146	+33	
その他・ 調整額	売上収益	20	9	—	
	調整後営業利益	3	12	+9	
	営業利益	△7	8	+15	
合計	売上収益	7,729	6,665	△14%	
	調整後営業利益	(7.0%) 542	(7.1%) 472	△70	
	営業利益	(10.2%) 792	(7.4%) 496	△296	

1-6. セグメント別業績： 高級金属製品

(金額単位:億円) ()は利益率	15/3Q累計	16/3Q累計	増減	補足
売上収益	1,942	1,740	△10%	自動車関連の環境親和製品等の需要が増加したが、アジアを中心とする経済減速の影響や軟質磁性材料の中国向け減少により、減収・減益
調整後営業利益	(10.4%) 203	(9.9%) 172	△31	
セグメント利益	(24.0%) 467	(9.1%) 159	△308	15/3Q累計期間に旧日立ツール株式売却に伴う事業再編等利益270億円計上

売上収益の状況

■特殊鋼

- ・工具鋼： アジアを中心とする経済減速の影響を受けた在庫調整があり、前年同期を下回る
- ・産業機器材料： 自動車関連の環境親和製品等が売り上げを伸ばしたほか、その他産業部材も堅調に推移
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料： 需要の端境期
- ・電子材料： ディスプレイ関連材料が低調

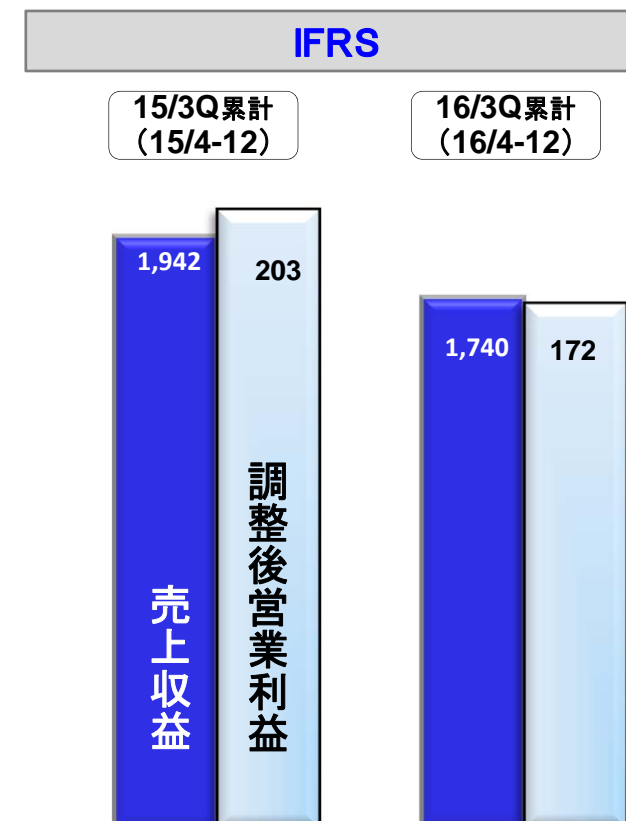
■ロール

- ・各種ロール： 高付加価値製品に経営資源を集中することを目的に、2016年9月1日をもって宝鋼日立金属軋(南通)有限公司の生産を打ち切り
- ・射出成形機用部品： 携帯端末の需要減少の影響を受けたことにより、前年同期と比べて減少

■軟質磁性材料・応用品

主力のアモルファス金属材料でインド向けが徐々に増加したが、中国向けの減少により、前年同期を下回る

(金額単位:億円)



1-7. セグメント別業績： 磁性材料

(金額単位:億円) ()は利益率	15/3Q累計	16/3Q累計	増 減	補 足
売上収益	806	736	△9%	下期に入り需要は増加基調に転じたが、原材料価格の下落(価格スライド制)と為替の影響を受け、減収
調整後営業利益	(6.1%) 50	(8.7%) 64	+14	為替の影響はあったが、好調な需要により、増益
セグメント利益	(6.1%) 49	(8.7%) 64	+15	

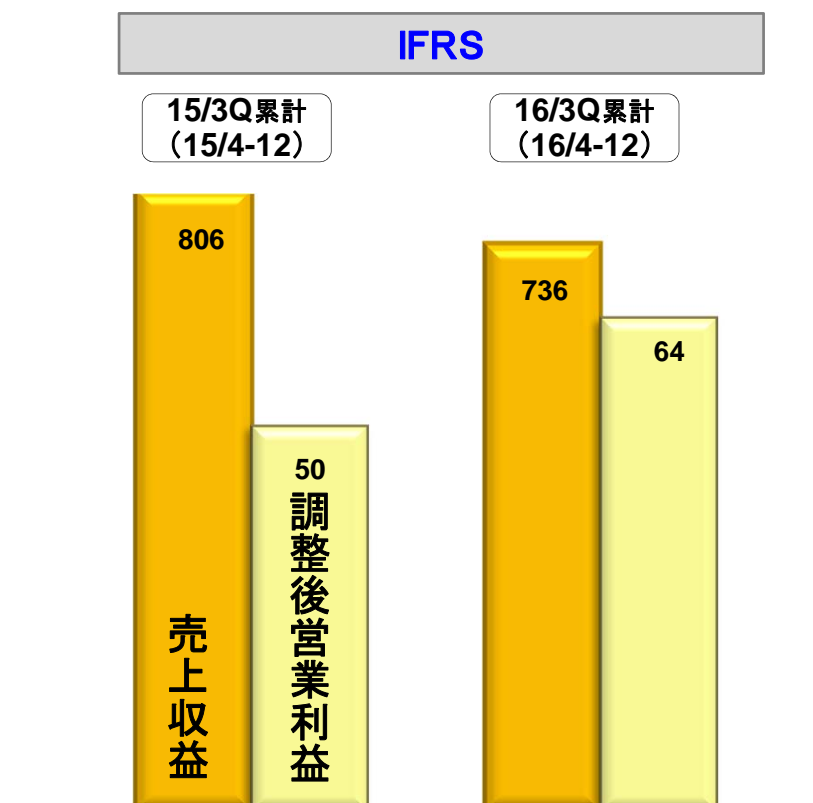
売上収益の状況

■マグネット

当セグメント全体の売上収益としては原材料価格の下落(価格スライド制)や為替相場の円高基調の影響で前年同期を下回る

- ・希土類磁石:
電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が好調に推移したが、産業機器および家電関連の需要は前年同期並み
- ・フェライト磁石:
フェライト磁石については、自動車用電装部品、家電用部品ともに好調に推移

(金額単位:億円)



1-8. セグメント別業績：高級機能部品

(金額単位:億円) ()は利益率	15/3Q累計	16/3Q累計	増減	補足
売上収益	2,769	2,421	△13%	北米ピックアップトラック向けは好調を維持したが、農機・建機向けの需要減や為替の影響により、減収
調整後営業利益	(6.6%) 184	(5.1%) 124	△60	為替影響に加え、耐熱鋳鋼の加工難易度の高い新製品対応等により、減益
セグメント利益	(6.1%) 170	(4.9%) 119	△51	

売上収益の状況

■自動車用鋳物

・自動車用鋳物:

北米において、ピックアップトラック向けは好調を維持したが、新興国経済の減速や穀物・原油価格の下落等の影響を受け、農業機械・建設機械向けの需要が減少したため、全体としては前年同期と比較して減少

・耐熱鋳造部品:

欧州向けが堅調に推移したほか、米国・アジア向けも大きく伸長し、前年同期を上回る

・アルミホイール:

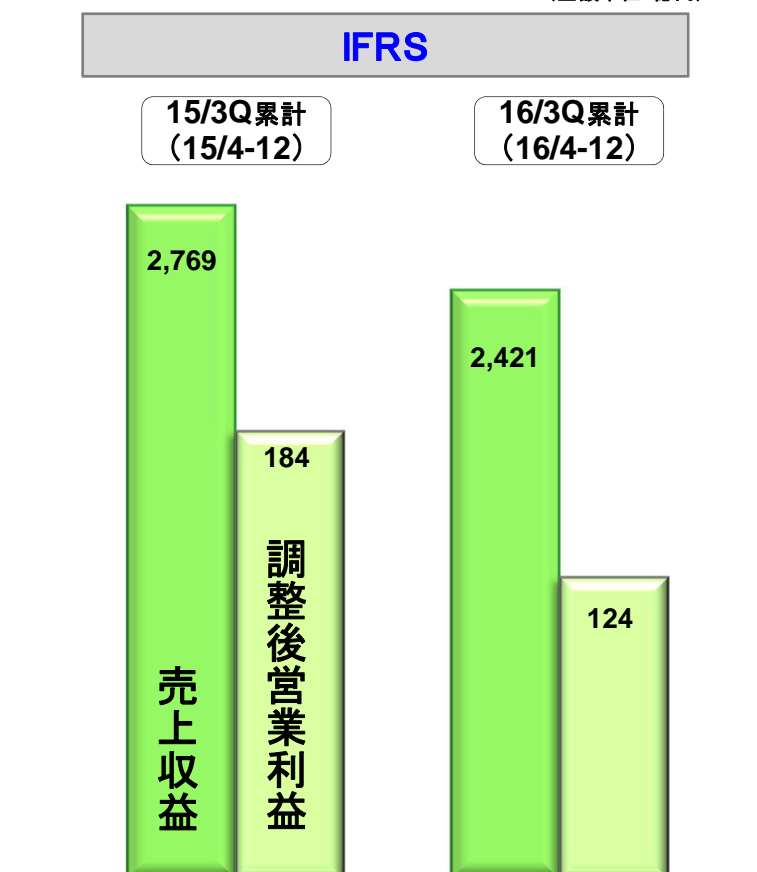
出荷量が減少したほか、為替相場が円高基調となった影響により、前年同期を下回る

■配管機器

・鋳物継手類:

継手類は、国内・海外とも住宅着工戸数の増加に伴い住宅向けの需要が順調に推移したが、国内で大規模建設工事の遅れの影響もあり、全体としては前年同期と比較して減少

(金額単位:億円)



1-9. セグメント別業績：電線材料

(金額単位:億円) ()は利益率	15/3Q累計	16/3Q累計	増減	補足
売上収益	2,192	1,759	△20%	鉄道向けは伸長したが、構造改革(情報システム)、建設向けの減少に加え、原材料価格の下落(価格スライド制)の影響により、減収
調整後営業利益	(4.7%) 102	(5.7%) 100	△2	建設向け電線は減少したが、鉄道向けの伸長により、前年同期並み
セグメント利益	(5.1%) 113	(8.3%) 146	+33	情報システム事業譲渡に伴う事業再編等利益51億円計上

売上収益の状況

当セグメント全体としては、情報システム事業(情報ネットワーク事業およびワイヤレスアンテナ事業並びに当社が保有する日立電線ネットワークス株式会社の発行済株式の全て)を、2016年12月1日付で譲渡した影響もあり、前年同期を下回る

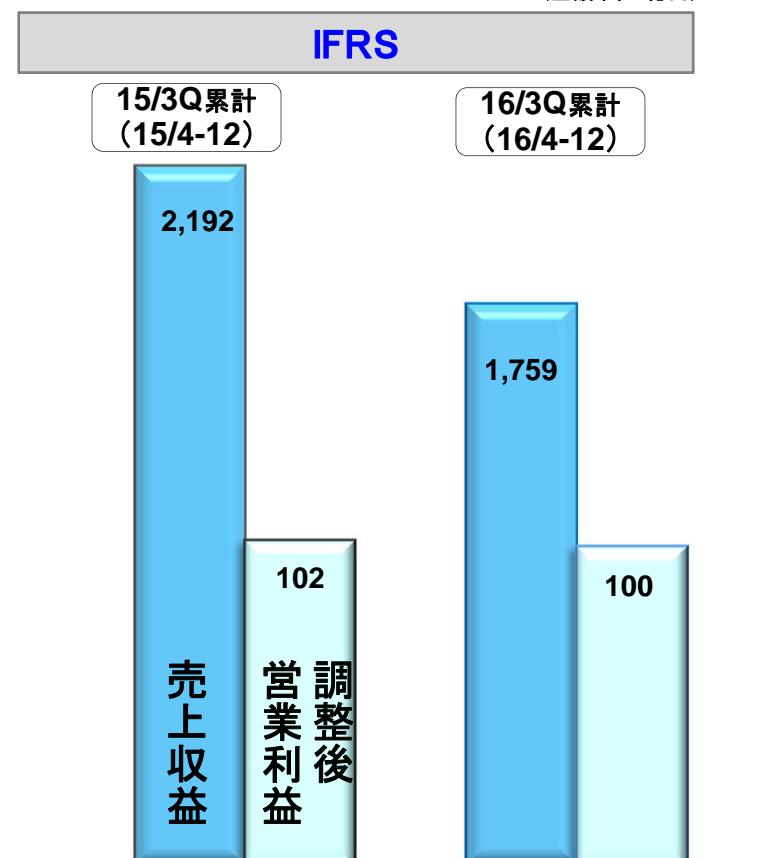
■電線

巻線や建設向けが減少したが、注力分野である鉄道車両用電線が中国向けを中心に大きく伸長

■機能品

- ・自動車部品は、自動車用電装部品、ブレーキホースとも堅調
- ・医療用プローブケーブルは、海外向けの需要減により、前年同期を下回る

(金額単位:億円)



1-10. 資産/負債・純資産

(金額単位:億円)

科 目	16年3月末 1\$=112.68円	16年12月末 1\$=116.49円	増 減
現金および現金同等物	1,203	1,165	△38
売上債権	1,783	1,745	△38
棚卸資産	1,470	1,488	+18
その他流動資産	382	380	△2
非流動資産	5,495	5,553	+58
資産合計	10,333	10,331	△2
有利子負債	2,204	2,092	△112
買入債務他	1,514	1,441	△73
その他負債	1,568	1,417	△151
負債合計	5,286	4,950	△336
親会社株主持分	4,959	5,263	+304
非支配持分	88	118	+30
資本合計	5,047	5,381	+334
D/Eレシオ (倍)	0.44	0.40	△0.04

16年3月末対比
資産合計2億円減少

D/Eレシオ 0.44 → 0.40

【資産】16年3月末比 2億円減少

【負債】16年3月末比 336億円減少
⇒借入金返済等により減少

【資本合計】16年3月末比334億円増加
⇒利益剰余金254億円増加

1-11. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位:億円)

科 目	15/3Q累計	16/3Q累計	増 減
第3四半期利益	560	361	△199
減価償却費	321	319	△2
運転資金の増減	69	△108	△177
その他	△320	△134	+186
営業キャッシュ・フロー	630	438	△192
固定資産の取得	△431	△460	△29
その他	340	192	△148
投資キャッシュ・フロー	△91	△268	△177
フリーキャッシュ・フロー	539	170	△369
借入金・社債の増減	△141	△139	+2
配当金支払 他	△115	△82	+33
財務キャッシュ・フロー	△256	△221	+35
為替変動影響	△16	13	+29
現金及び現金同等物の増減額	267	△38	△305
現金及び現金同等物の期末残高	1,057	1,165	+108

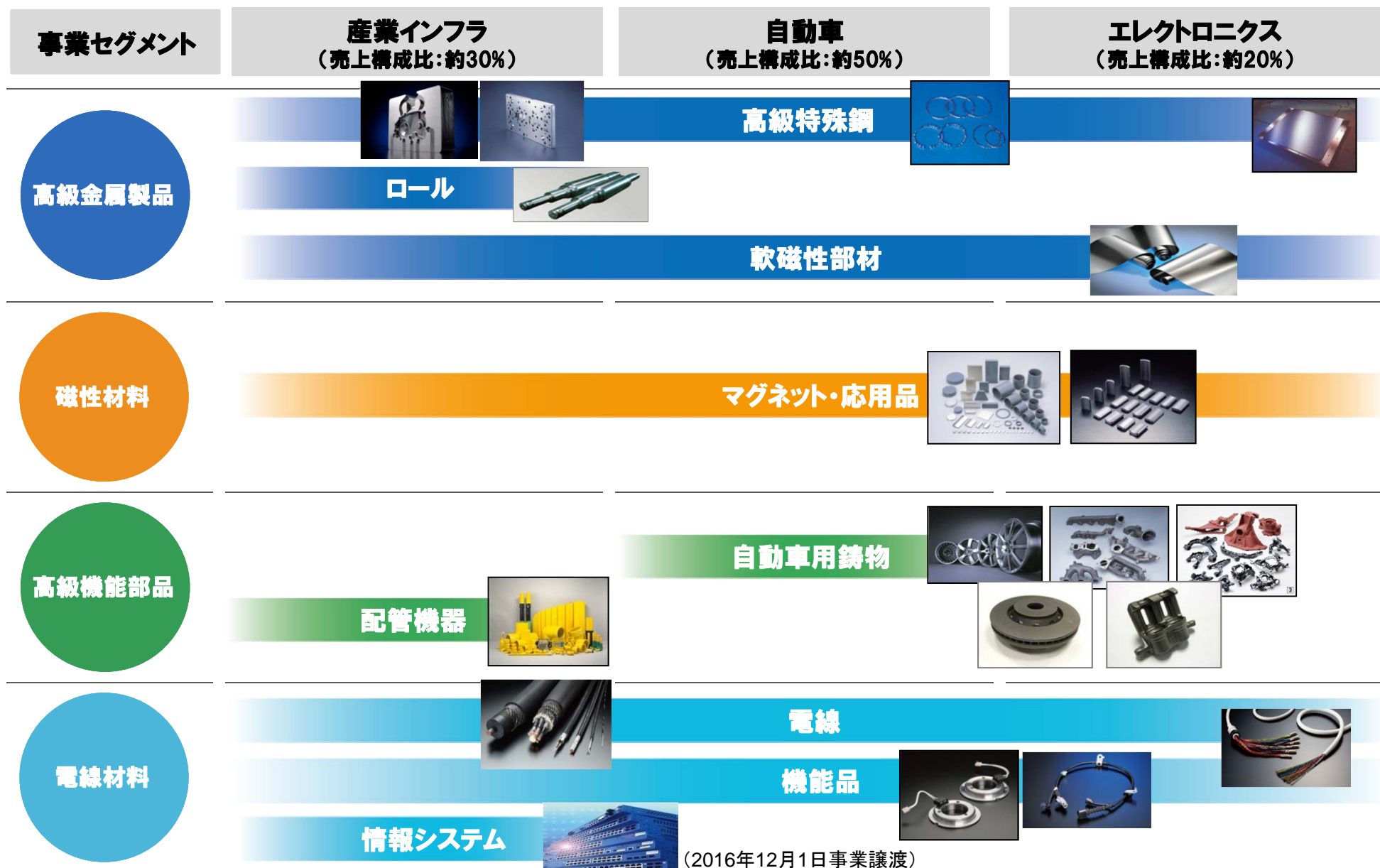
【営業キャッシュ・フロー】

第3四半期累計利益の減少等により、前年同期に対し、192億円の減少

【投資キャッシュ・フロー】

16/3Qは情報システム事業譲渡に伴う収入があったが、15/3Q累計期間は旧日立ツール株式売却による収入があったこと等により前年同期に対し、177億円の減少

(参考) マーケット分野別事業構造(2016年4月1日～)



(参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2016年4月1日～)

■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
高級金属製品	高級金属カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[Y S Sヤスキハガネ](工具鋼、電子材料<ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料>、産業機器材料<自動車関連材料、剃刃材および刃物材>、航空機・エネルギー関連材料、精密鑄造品) ※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
磁性材料	磁性材料カンパニー	
	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
高級機能部品	高級機能部品カンパニー	
	自動車用鑄物	自動車用鑄物(高級ダクタイル鑄鉄製品 [HNM®]、輸送機器向け鑄鉄製品、排気系耐熱鑄造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品、自動車用鍛造部品
	配管機器	設備配管機器(®印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース、ワイヤレスシステム(2016年12月1日事業譲渡)
	情報システム	情報ネットワーク機器[APRESIA®](2016年12月1日事業譲渡)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動